

いっしょにツギハヤク

第23号

平成23年7月
発行: 依田窪老人保健施設
広報編集委員会
〒386-0603
小県郡長和町古町 3365-5
TEL: 0268-68-0281
FAX: 0268-68-0283

災害応援派遣レポート

依田窪老人保健施設いこいでは、全国老人保健施設協会からの職員派遣依頼を受け、4月7日～26日までの間、8名の看・介護職員が、東日本大震災で被災した、岩手県陸前高田市にある介護老人保健施設で災害応援活動を行いました。今回は、派遣職員のレポートを紹介します。



派遣施設から見た陸前高田市の被災状況

私たちが派遣された施設は高台にあつたため、津波の被害には遭いませんでしたが、地震により天井や壁の崩落、ライフラインの損傷により使用できる状況ではなく、入所者の大半は同法人の運営する他施設に分散避難をしており、一部の利用者様が施設内で比較的被害の少なかつた併設の透析クリニックで船詰め状態でサービスを受けていました。

実際の現場では物資が不足し、お湯も使えない等十分なケアができる状況ではありませんでしたが、自分たちができる精一杯のケアをさせていただきました。その間、ケアスタッフや利用者様からいただいた感謝の気持ちは一生忘れることができせん。今回、私たち8名は多くの事を感じ、学ぶこと

ができました。その思いの一端を報告させていただきます。

*カッコ内は(職種・派遣期間)です。

飯塚 稔(介護員・4月7日～11日)

派遣職員第1部隊のため、緊張と不安の中出発しました。派遣活動を通し感じたことはチームワークの大切さでした。施設職員やボランティア・派遣スタッフなどが一致団結し、ケアをしている姿が印象的でした。スタッフや利用者様の笑顔に助けられ、感謝の言葉をいただいたときには、この仕事をしていて良かったと思えました。

藤岡真由美(介護員・4月7日～11日)

普段の何気ない生活が、とても大切な事だと思いました。介護を行うにも介護用品がない、断水や停電といった経験した事のない環境の中の支援は想像を遙かに超え、大変でした。でも、テレビでの光景を見た時に、現場に行つて何かをしたいという気持ちはあつたので、実際に経験してきて、今までの自分の介護を見つめ直す事ができました。

渡邊知幸(介護員・4月12日～16日)

私は地震からちょうど一カ月後に被災地に入りました。私が一番驚いたのは人の強さです。現地職員は皆被災者にも関わらずとても明るく元気で笑顔が溢れていました。私が派遣された時に地震発生以降初めて洗髪を行う事ができました。利用者様は笑顔で喜んでくれました。今後、仕事をして行く上で、あの『笑顔』を忘

災害応援をした老健施設の状況



修復のためには壁が組まれていました。

施設内はいたるところで、壁に亀裂が入ったり崩落していました。

れずに、いこいのご利用者様にも、いつも『笑顔』でいられるようなケアをさせていただきたいと思えます。

坂本初美(看護師・4月12日～16日)

体験した人にしか解らない、計り知れないほどの恐怖・哀しみ・不安を抱えながらも、互いを思いやり、励まし合い、決して悲観的な事は口にせず前を見て生きている人々からは「強さ」を感じました。同時に、誰かの命の最期を看取するという自分の仕事の責任の重さを改めて認識しました。「この関わりが、もしかしたら最後になるかも…」という気持ちで、一つひとつの人の関わりを大切に、丁寧に仕事に励んで行きたいと思えます。

宮下 実(介護員・4月17日～21日)

被災地に支援に行き、目の当たりにし

た光景はあまりにもショックでした。必要な物が無い中での介護を経験し、利用者様にしてあげたくてもできない事が、こんなにも苦しいのかと感じました。普段の自分の仕事を見つめ直す良い機会になりました。これからは、その日、その時、一瞬を大切に、精一杯の介護をして行きたいと思えます。

土屋友季（介護員・4月17日～21日）

利用者さんは震災から一度も入浴できておらず、少しでも清潔にしてあげたいと思うのですが、最低限の清潔保持ですら厳しい状況でした。派遣から帰り、気持ち良さそうにしている利用者様の顔を見たときに自分も幸せな気分になり、恵まれた環境の中で働けることが当たり前ではなく、幸せなことだと気づかされました。

上條拓也（介護員・4月22日～26日）

スタッフも家や家族を失い、心に大きな痛みを抱えながらも、お互いのことを思いやり、利用者様のために懸命にがんばる姿をみて、チームワークの大切さを感ずると共に、自分たちがいかに恵まれた環境で介護をさせていただいているのかを、考えさせられました。この経験を通して、自分たちが当たり前に感じている事は、当たり前ではなく、すごく幸せな事なんだなと気づかされました。

大谷明子（介護員・4月22日～26日）

当初、少しでも役に立ちたいと志願した被災地派遣ですが、触れ合った方々は

皆、支え合い、弱音も吐かず、前へ歩き出そうとしていました。私達が今いる場所は物資も設備も充実しています。だからこそ、今以上にできる事があるはず、と気付かせていただきました。平凡である事のありがたみを忘れることなく、これからもがんばります。

■施設内報告会



6月28日、いこいで災害応援派遣活動の報告会を開催しました。派遣先での活動内容や、感じたことなどを、被災状況のスライド写真を交えながら報告しました。参加した職員は真剣に話しを聞き、被災地での様子を熱心に質問していました。

最後に、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

※いこいでは、派遣職員が中心となって、災害対策委員会を設置しました。災害対策マニュアルの見直しや、防災訓練の実施方法の検討を進め、災害対応力を高め、災害に強い施設を目指して参ります。

ふれあい

（平成23年4月から7月までの出来事）

お花見ドライブ（5月6日）

今年はずいぶん満開の時期に見学に行く事ができ、利用者様から「もう一度見に行きたい。」などの声が聞かれ、春を満喫することができました。

長門小学校音楽会（6月24日）

お孫さんの歌を聞けたり、ご近所の方との会話が弾んだ利用者様がいらっしやいました。

七夕祭り（7月7日）

今年は、いつもの年に比べ、短冊の数が多くにぎやかな笹飾りになりました。皆さんの願い事が一つでも多く叶うとうれしいです。

人事関係

7月1日付で、次のとおり人事異動がありました。



異動

理学療法士 佃 佳子（老健↓病院）
作業療法士 荻原麻里子（病院↓老健）

作業療法士 荻原麻里子

7月よりお世話になっております。一日も早く慣れ、お役に立てるようがんばりますのでよろしくお願ひします。



手話ダンス（4月26日）

長久保甚句演奏・踊り（6月7日）

手話ダンス、そして長久保甚句の演奏と踊りのボランティアの皆様へ、ご来訪いただきました。ご利用者の皆様は、手話ダンスに合わせ、一緒に手を動かされ、長久保甚句は口ずさむ方もいらっしやいました。また、合間に手品やフラダンスをご披露くださり、楽しいひと時を過ごす事ができました。



★ 編集後記 ★

梅雨のジメジメとしたすっきりしない毎日です。また、今年の夏の猛暑を予感させるのかのような暑い日が続いております。

今年は震災による原子力発電所の事故等による電力不足により、節電が呼び掛けられています。体調管理をいっばんに考えて節電をし、今年の夏を乗り切りましょう。（編集委員）